

今週（2月6日から2月10日）の短期金融市場動向

●インターバンク市場

今週のインターバンク市場は、日銀当座預金残高が320兆円台後半で推移する中、無担保コールO/Nは、概ね▲0.06～▲0.02%のレンジで取引された。積み期が終盤に差し掛かった事で、積みの進捗を意識する動きとなり、週を通して調達意欲の強い展開となった。また、複数の邦銀から試し取りと見られる調達が散見された。無担保コールO/N加重平均レートは、調達意欲の強さを反映し、日を追うごとに上昇していった。ターム物は、ショートタームを中心に複数の出会いが見られた。

固定金利方式の共通担保オペは9日に、2W・8,000億円がオファーされ、落札額1,430億円(期落ち額1,460億円)となった。

●レポ市場

今週のGCIは、週初6日のT/Nは、短国買入オペ等の要因があったものの、出会いを伴いながらレートが若干上昇し、▲0.09%中心の出会いで始まった。その後は目立った要因もなかったことからレートは横ばい圏内で推移し、短国6M物の発行日にあたる8日のS/Nでも▲0.09%中心の出会いとなった。9日のS/Nでは、短国3M物の発行日にあたったことから、レートが若干上昇し▲0.085%中心の出会い、10日のT/Nでは、在庫ファンディングニーズ等から、レートは▲0.06%まで上昇した。10日のS/Nでは、短国買入オペ等の要因があったことから、レートは▲0.08%中心の取引となった。

SCは、新規・コールオーバーともに幅広い銘柄で取引が見られた。個別銘柄では、2年債370～372回、5年債127～130回、10年債343～345回、20年債159回、30年債50～52回、40年債9回にビッドが多く見られた。

●短国市場

今週の短国市場は、日銀による短国買入残高が減額し続ける中、買入オペの動向に不透明感が強くなったことで、全般に相場が大きく弱含む展開となった。

8日には6M物、9日には3M物の入札が実施された。6M物の入札は、WI取引で▲0.25%での出会いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.2235%、按分落札利回▲0.1853%と軟調な結果となった。業者の慎重姿勢が反映され、前回比(656回債、平均落札利回0.3501%、按分落札利回0.3400%)で大きく上昇した。セカンダリーでは▲0.205～▲0.20%の出会いが見られた。水準感が大幅に上昇したためか、短国買入オペ見合いによる買いも手控え気味となっていた。3M物の入札は、WI取引で▲0.225～▲0.21%の出会いが見られる中、入札結果は平均落札利回▲0.2128%、按分落札利回▲0.1904%となるなど、前日の6M物に続き前回比(661回債、平均落札利回▲0.2709%、按分落札利回▲0.2625%)で大きく上昇する結果となった。セカンダリー市場では▲0.21～▲0.20%での出会いが見られた。

短国買入オペは10日に1兆5,000億円で実施され、結果は平均落札利回較差+0.018%、按分落札利回較差+0.002%(按分比率88.9%)となった。3M物の既発債と今週入札が行われた6M物の新発債の応札が中心になったと見込まれる。

●CP市場

CP市場は、週間償還総額5,000億円弱に対して、週間発行総額3,500億円程度となった。一部の商社・石油・小売業態において大型発行が見られたものの、月の初旬ということもあり、全体的に資金調達ニーズが弱く、やや発行案件が少ないマーケットとなった。

発行レートについては、残高が積み上がっているノンバンク業態や、一部の銘柄において上昇が見られたものの、引き続き投資家の運用ニーズが0%付近では強く、期内物では0%に限りなく近いプラス圏、期越え物においてはCP等買入オペ見合いによる浅いマイナス圏での決着が大半であった。

●短期金融市場関連指標

	日経平均 (円)	新発10年物 国債利回り (%)	為替 (ドル/円中心相場)	無担保コールO/N (加重平均・%)	東京レポレート(翌日 物・T+1スタート・%)	日銀当座預金残高 (億円)
2/6 (月)	18,976.71	0.100	112.55	△ 0.046	△ 0.093	3,227,700
2/7 (火)	18,910.78	0.095	111.85	△ 0.035	△ 0.089	3,255,700
2/8 (水)	19,007.60	0.090	112.40	△ 0.028	△ 0.090	3,265,900
2/9 (木)	18,907.67	0.080	112.18	△ 0.027	△ 0.089	3,257,200
2/10 (金)	19,378.93	0.080	113.70	△ 0.023	△ 0.073	3,255,500

来週（2月13日から2月17日）の短期金融市場動向

●経済カレンダー

	国内主要経済指標	国債等入札予定			海外主要経済指標
2/13 (月)	10-12月期のGDP 1次速報(内閣府 8:50) 12月のマネタリーサーベイ(日銀 8:50)				
2/14 (火)		5Y 24,000億円 2/16発行			1月の米生産者物価指数 10-12月期のユーロ圏GDP2次速報 1月の英消費者物価指数
2/15 (水)	12月の石油等消費動態統計(経済産業省 13:30)	TB1Y 25,000億円 2/20発行	国有林野借入 936億円 2/27借入		12月の米企業在庫 1月の米消費者物価指数 1月の米小売売上高 1月の米鉱工業生産・設備稼働率
2/16 (木)		TB3M 44,000億円 2/20発行	流動性供給 4,000億円 2/20発行		1月の米住宅着工件数
2/17 (金)		交付税借入 10,500億円 2/28借入			

●資金需給予想

単位：億円	銀行券要因	財政等要因	資金過不足	オペ種類	期日分	新規実行分	オペ合計	実質過不足	需給要因
2/13 (月)	900	▲ 20,400	▲ 19,500	全店共通 CP買入 ETF買入 国債補完	▲ 1,500 ▲ 200 3,700	1,400 700	4,100	▲ 15,400	TB3M発行▲44000償還34400 30Y発行▲8000 交付税借入▲10500期日10500
2/14 (火)	1,000	▲ 2,000	▲ 1,000	国債買入 短国買入		11,400 15,000	26,400	25,400	源泉税揚げ
2/15 (水)	0	56,000	56,000				0	56,000	年金定時払い 2Y発行▲23000償還13400 個人向け3Y・5Y・10Y発行▲5700 個人向け3Y償還300
2/16 (木)	▲ 1,000	▲ 26,000	▲ 27,000				0	▲ 27,000	5Y▲24000
2/17 (金)	▲ 2,000	0	▲ 2,000	CP買入		3,000	3,000	1,000	
週間合計	▲ 1,100	7,600	6,500	—	2,000	31,500	33,500	40,000	

2/13は日銀予想、2/14以降は当社予想

●短期金融市場の見通し

インターバンク市場は、15日に年金定時払いがあり、大幅な余剰日となることが見込まれる。1月の積み期間である15日までは、積み終盤に差し掛かっている事もあり、今週の流れを引き継いで無担保コールO/N加重平均レートは強含みで推移することが予想される。新しい積み期間に入る16日以降は、15日の年金定時払いなどを受け、調達意欲が一服すると考えられるため、レートは低下すると予想される。

短国市場は、15日に1Y物、16日に3M物の入札が予定されている。短国買入オペが減額傾向となっている中、軟調な展開が続くと見込まれる。

CP市場は、14日にCP等買入オペが3,000億円でオファーされる予定となっている。業者の応札ニーズが強く、結果は引き続き0%を僅かに下回る水準で決着すると考えられる。

主要なイベントとしては13日の10-12月期のGDP1次速報値、14日の10-12月期のユーロ圏GDP2次速報などが挙げられる。

- ◆本資料は信頼できると思われる各種データに基づいて作成されておりますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- ◆本資料は何らかの取引を誘引することを目的としたものではありません。売買に関する最終判断はお客様ご自身でなされますようお願い申し上げます。
- ◆金融商品のお取引には価格変動等によるリスクがあります。金融商品のお取引には手数料等をご負担頂く場合があります。金融商品取引法に基づきお渡しする書面や目論見書をよくお読みください。